大町労山だより
2017年4月号VOL4-NO37　4・18 発行

新たな 50 年への第 1 歩
出席者 22 名～定例総会，成功裏に終わる

3 月 26 日(日)、大町労山の定例総会が行われ、22 名の出席者を得て年間の活動のまとめと次年度の活動方針が審議・採択されました。

今回の総会は、山岳総合センターを会場にして、総会を 26 日(日)に設定，前日の土曜日は登山と泊まりこみの懇親会を行うという画期的な試みでした。

前日の雨引山登山には 11 名(次ページ参照)，懇親会には 12 名が参加し、また総会当日は、近隣の市町村の一斉清掃日に当たっていたにも関わらず 22 名の出席者を得ることができました。

我が大町労山も高齢化の波には抗えず、年度替わりに当たって多数のベテラン会員の退会を余儀なくされることとなりました。新しい会員が増えている中で、高齢会員が引退して幾分小さくなった感は否めませんが、だからこそ新たな会員を増やし、より強固な会にしていくことが求められており、今がその好機であるとも言えます。

一丸となって新たな 50 年への第一歩を踏み出そうではありませんか!!

総会報告

総会では活発な意見が出され、年間の活動のまとめと次年度の活動方針を討議・採択した他、次のことが確認されました。

- 特別会計は、退会者には返金しない。
- 10 年以上在籍の退会会員には、記念品を渡す
- 会長・事務局長・機関紙・会計・県連理事には、「通信・交通費補助」として、年間 3000 円を支給する
- 会の宣伝ポスターや登山教室の案内を公民館やローカル紙等にお願いする
- 里山山行も計画する

総会のあと、山岳博物館指導員の西田均さんによる講演『カクネ里の氷河調査』報告を受講しました。

総会および関連行事への参加状況は下記の通りです。

3 月 25 日(土)　雨引山参加者：11 名　懇親会参加者：12 名　宿泊者：11 名
3 月 26 日(日)　総会出席者：22 名　講演会参加者：21 名

なお、総会後の例会(4月4日)で、今回の企画(前日山行と懇親会、泊って翌日午前総会と講演)はよかったので、来年度も日程は 3 月第 4 日曜日を避けて実施しようということが確認されました。

雨引山・山頂にて

第１回例会報告(4 月 4 日) ＆ 山行記録

３～４月の山行，および行事報告と山行の記録

雨引山　3 月 25 日(土)　参加者 11 名

石井・尾形・古畑文・小山・鈴木・谷口・津田・鶴川栄子・北條･細田・宮島

凍結した長い下りの急斜面がありました。トップの尾形が小山・鈴木の補助ロープをセットして全員が問題なく下りることができましたが、アイゼンとロープがあってこそ安全に下れる場面でした。（敬称略）

今回の雨引き山の教訓　→ヒヤリハット

1371ｍの低山であるため、通常この時期にアイゼンが必要と思われず、装備品にアイゼンの記載がなかったが、春山登山者は低山といえどもアイゼン、補助ロープ・カラビナ・スリングは当然持って行くべきものという習慣が必要。

今回の教訓から、4 月 4 日の例会開始前に以下のロープワークを講習しました。

① フィックスロープ゛のセット（カウヒッチかクローブヒッチ）
② 2 本の補助ロープのつなぎ方（ダブルフィッシャーマンまたはシートベント）
③ 短い斜面ならバタフライノット、長ければ簡易ハーネスにフリクションノットで下りる
④ ラストの下り方→カラビナによる懸垂下降＝ムンターヒッチまたは下の人が確保）

これらは、いついかなる時でもササッとできることが必要です。

角田山　4 月 2 日(日)

参加者 10 名　尾形・桑原・神津・鈴木・谷口・津田･鶴川栄子・鶴川栄・北條・細田

大満足～『花の山・角田山』　報告者　津田　広一

４月２日　初めての角田山　例年地区の一斉清掃で参加できなかったが、今年はようやく参加できた。

松川道の駅へ午前 5：30 集合。4 時間の道程で午前 9：40 角田浜の駐車場着。花の山で有名で、観光バスなども停まっていて花見時で混んでいた。

国道を渡ると登山口で、登り始めてすぐにユキワリソウが目についた。例年より遅めとのことだが、しばらくするとカタクリも見られ、登山道脇に群生している。

昼には頂上(標高 481m)に着き、初めての海抜 0m からの登山となる。

頂上は大きな広場になっており、のんびり昼食後、帰路は別ルートでの下山となり、花や海を見ながら角田岬灯台を目指して下る。

灯台の脇を通り、海岸で記念撮影を撮る。午後 2：40，帰路の寺泊の海鮮市場へ寄り、大満足の『花の山・角田山』であった。

青春 18 切符で彦根城へ　　4 月 9 日(日)

参加者 4 名鶴川栄子　鶴川栄　細田　宮島

行き　松川 5：45/北細野 5：48➡6：26 松本 6：326➡：48 塩尻 6：51
➡8：47 中津川 8：55➡10：08 金山 10：24➡11：02 大垣 11：12
➡11：47 米原➡彦根 11：55　※米原➡彦根・近江鉄道 310 円

帰り　彦根 14：48➡14：53 米原 15：00➡ 15：33 大垣 15：41➡
16：20 金山 16：28➡17：39 中津川 18：02➡20：22 松本 21：08➡
21：44 北細野/21：47 松川　※名古屋でなく金山で乗り換える。

木曽の街道・与川道の予定でしたが、天気が悪いため車中で急遽変更。18 切符で旅をしている同乗者の方のお話しを伺って米原から彦根まで足を延ばし、彦根城の桜を見てきました。米原 - 彦根間は時刻表の読み違いで、近江鉄道に乗ったため 310 円余計に払っちゃいましたけど、お金をかけずにできる心豊かな旅でした。

名古屋駅での中津川行き乗り換えが軒並み 3 分って、無茶だよネッ。なので金山で乗り換えるのがお奨めです

18 切符利用のこんな旅をもっと増やして青春したものですネッ!!　鶴川栄子・談

独鈷山登山記　　4 月 17 日(月)　　鶴ちゃん

参加者 7 名　神津・古畑文・津田・鶴川栄子・北條・細田・宮島

4 月 17 日…。本来なら光城山に行く予定を変更して独鈷山にいくことにした。

3 日程前に細田さんと大口沢コースの触りだけの下見のはずが本コースまで行って来てしまったのだ。「2 回も行くこともないじゃない」と判断し、「独鈷山」には行ったことがないと細田さんが話したので急遽山が変更となり、総勢 7 人が集まった。

コースを決めるに当たり、ピストンでは面白くないと思い、縦走コースを設定した。当日、私もいい加減なもの。出発時間を変更、集合場所も変更としたため、ちょっとしたアクシデントがあった。変更した場所に M さんが来ない!!　TEL してもなかなか出ない‥。しょうがないと出発したらすぐに連絡あり、大口沢で待っているとのこと。通り道なので合流して事なきを得る。

今回は平井寺コース～宮沢口に下りるコース。平井寺コースの林道がこんなにダートだとは‥。行ったことがあるとはいえ、15，6 年前の記憶。軽ホビオと細田さんのスイフトで登山口まで行くことになったが、途中落石あり、危険極まりない道。細田さんの普通車は車高が低くかなり慎重に走る。登山口で仲間を下し、宮沢口に車を回してまた戻る。平井寺トンネルの有料代を奉仕した。

10 時 30 分に宮島さんを先頭に出発、早々から急登が続く。落ち葉の山積した道をスミレやハシリトコロ、ヒトリシズカなど枯葉いっぱいの中から見つけては女子会メンバーは感激!!　男子はどれどれと観察。鎖付きの岩場を超えるとそこは山頂でした。12：00 に到着。360 度の展望の山であったが曇り空の為、すっきり見えず残念でした。天気予報は当たり、風が出てきた雲行きも怪しくなってきた。帰りは宮沢コースを下るがこちらもかなりの急下降、慎重に下る。13：30 下山。

注　　平井寺コースに 1 箇所だけ枯葉の下が凍っていた。今回は参加者全員に軽アイゼン携行をお願いした。また、標高の割には登山道がシビアであることも。

山頂より塩田平を見下ろす　→

４～５月の山行・行事計画

(1) 4 月 23 日(日)　県連登山学校・大洞山　参加費 1000 円

第 95 回**県連登山学校(地図読み講習会Ⅰ)　4 月 23 日(日)**
●目的：コンパスの使い方、地形図の読み方などの基本操作を学び、道迷いを防ぐ
●場所：大洞山（おおぼらやま　1093m）
大町市・松川村の境　安曇沓掛駅の西 3Km
地元の山です。積極的に参加してください。

(2) 4 月 29 日(休)　小日向山；鑓温泉での幕営の検討中です。
例会時点で 5 名が参加予定。
(3) 5 月 3 日(祝)～6 日(土)　県連スキルアップ講習会　白馬岳猿倉ルート周辺
目的：雪上技術の習得による総合力のアップ　　参加費 1000 円
(4) 5 月 7 日(日)　鍋倉山　※次週の県連山行とは別ルート(森太郎を含む)
(5) 5 月 14 日(日)　県連鍋倉山交流登山
(6) 5 月 20 日(土)　鍬ノ峰・公募山行(決定)
(7) 5 月 21 日(日)　県連霧訪山地図読み登山

なお、今後の山行のあり方に関して、里山登山・ハイキングとアルパイン山行をともに目指すこと，また、春山・冬山合宿を視野に入れて、テントの購入を検討することを確認しました。

いよいよ春山シーズン到来

残雪と新緑の山は最高です。夏山は飽き足らないとか、冬山は怖いから行かないという登山者がいます。こんな方に春山の魅力を伝えて、新しい仲間を増やしましょう。
「残雪輝く山にあなたも行きませんか」と。
３月の総会を期に４名のベテラン会員が退会されました。

機関紙のマニュアル化に向けて

機関紙担当　森田

総会でも述べましたが、毎回、原稿を依頼するのも、されるのもとてもしんどいことで、こういう風にしてしまった責任を痛感しています。なので、今年は機関紙を簡素なものにしたいと思っています。3 年を区切りにと考えていたのですが、そのために、もう 1 年だけ務めさせて頂くことになりました。
引き続きよろしくお願い致します。

これまで沢山の方から数多くの『山行記録』や『山行報告』を頂いてきました。それらはすべて、みなさんがその山行によって得られた満足感や充実感、感動が言葉や文になって溢れ出たものでした。
このように自然に内側から湧いて来る感動を表わした『山行報告』や『山行記録』をこれからも自発的に寄せて下さることを切望しています。

一方、『山行記録(報告)』と言う場合、行動の過程や感想を『文章』としてまとめなければならないと言う思い込みがあって、それが原稿を書くことの『重さ』になっている面もあるのではないかと思っています。
もちろん、緻密な行動記録や感想があるに越したことはありませんが、『文章』としてまとまっていなくては『原稿』ではないと言うことはありません。
総会で述べたことですが、『山行報告(記録)』としての最低限の情報として、対象となる山(山域)と日時、参加者等の基本情報に加えて、当日のコースタイムや天候・コース等の状況、参加者の健康状態を含む行動の状況やヒヤリハット等々を正確に記録し、後日に繋げるものであれば、それは立派な『山行報告(記録)』であると思います。それはまた、当事者と労山全体にとっての財産でもあると思います。
そして、それはある山行では書かれたが、別の山行では書かれず終いだったと言うような書き手の恣意に基づくものではなく、会の義務としてすべての山行について記録されるべきものであると考えます。総会でもそのように確認されたものと認識しています。

『山行記録(報告)』がこのように位置づけされるならば、機関紙担当がこれまでのように『原稿』をお願いする必要はなくなります。今後、機関担当が求める『山行記録(報告)』とはこのような意味です。
各山行では必ず記録担当を決めて，以上のような報告を寄せて下さいますようお願いします。なお、写真も重要な情報源です。メモを取らなくても、各ポイントで写真を撮って送って下されば、コースタイムはそれでも OK です。
ぜひともそのような山行スタイルを定着させて下さい。それによって、機関紙が簡素なものになり、マニュアル化されると思っています。ぜひご協力下さい。というか、記録担当になられた方には、容赦なく記録の提出を求める所存です。
そしてまた、自らの意思による自発的な感動も寄せて下さい。待っています。